

NPO（特定非営利活動法人）

映画美学校

THE FILM SCHOOL OF TOKYO

フィクション・コース第29期高等科

募集要項

Fictional Film Production Course

2026

フィクション・コース第29期高等科 カリキュラム

初等科とここが異なる！

■初等科体験から高等科体験へ

初等科体験とはいったい何だったのか？ 映画に対する知見の拡大、他では経験できない実践の積み重ね、仲間との出会い、または疲労、困ばい、すり切れ、落胆、あるいは自分自身の可能性と不可能性の発見……。講師陣の目から見ると、明確に何かをつかんだ人やつかみかけている人よりも、つかみかけているけれどつかみかけていること自体に気づいていない人の方が圧倒的に多いように思われます。つまり、自分の気づきを意識化・言語化・身体化できていないということです。そこで高等科では、その気づきに意識化・言語化・身体化の機会が訪れるよう、初等科とは内実の異なるカリキュラムを用意しました。「10分短編実習」「コラボレーション実習」を経て「修了制作」に至る高等科の体験が常に受講生に問うのは、その気づきをいかに意識＝血肉＝思想＝実践に鍛え上げるかです。

■脚本コースとのコラボ「10分短編映画制作」

脚本コース第14期高等科後期生が書いたシナリオを映画化する実習です。単に脚本コースからシナリオを提供してもらうのではなく、脚本を執筆した脚本コース生とフィクション・コース生とが、両コースの講師も交えて本直しを行い、撮影稿に仕上げていく、脚本コースとのコラボレーション講義です。制作は2班に分かれて行います。監督はじめスタッフはフィクション・コース受講生が受け持ちます。脚本コース生も含めた、新たな仲間づくりをして下さい。

■“プロとの映画作り”「コラボレーション実習」

映画作りにおいて何をどれだけ経験したか、その「量」の差が、いわゆるプロとアマを分かちます。そのことを嫌というほど思い知るのは、プロと同じ現場に立ったときのプロの動きが、アマであるあなたとはまったく違うことを目の当たりにしたときです。大事なのは、このプロと「同じ現場」に立つことで、「量」とは何かを具体的に問うという体験です。「コラボレーション実習」では、プロである講師陣とともに25分程度の短編映画を企画し、撮影し、仕上げます。受講生のなかからも監督が選ばれ、受講生全員が講師陣（当然ながら技術講師もプロの現場スタッフとして参加する）と「同じ現場」で、コラボしながら映画作りを行います。しかし、「量」が常に勝利するわけではありません。「量」に伴うべきは「質」だし、「質」はときとして「量」の多寡と無関係に、つまりプロとアマの差を超えて、きつとあなたを動かします。その「動き」が、あなたを「修了制作」での「動き」へと導きます。

■体験を血肉化する「修了制作」

「10分短編映画制作」「コラボレーション実習」を経て血肉化した映画力が最終的に試される場が「修了制作」です。まずは一人一人が30分の短編シナリオを企画し、完成させます。完成したシナリオは選考にかけられ、選抜されたシナリオを受講生だけで制作します。制作費は学校からの予算およそ60万円です。

○演出・脚本分野：高橋洋（脚本家・映画監督）、西山洋市（映画監督）

○10分短編映画制作担当：高橋洋、西山洋市、宇治田隆史（脚本家）、富永昌敬（映画監督）

○コラボレーション実習担当：西山洋市

○技術講師：山田達也（撮影）、臼井勝（録音）

* 都合により講師や講義に変更の可能性がございます。

担当講師メッセージ

「自分の脳みその外側に出て考える」

劇作家のブレヒトはナチス支配下の1934年に次のような文章を匿名で（匿名にするしかなかったのだ）発表している。「ものを書く人間は、強い者に屈服すべきではない、弱い者をだますべきではない。もちろん強い者に屈服しないのはたいへん難しい、弱い者をだますのはおおいに得になる。持てる者の機嫌を損じるのは、持つのをあきらめることを意味する。力を持った人々の間での榮譽を拒むのは、しばしば榮譽そのものを拒むことになる。これには勇気がいる」「迫害を受けた人々の多くは、自分の誤りを認める能力をなくしている。一番いけないのは迫害だと思い込んでいる。迫害者は悪人だから迫害するのだ、迫害を受けた自分たちは、善良だからこそ迫害されたのだと考えている。しかし、善良な者が負けたのは、その善良さのためではなく、その弱さのためだ。だが、これを言うのにも勇気がいる」。ブレヒトはここで、全体主義下での正義や勇気や誠実さについて語っているのではない。物事について語る時は“深く抉れ”と言っているのだ。ブレヒトの考え方は戦後に至っても一貫している。「今日の世界は、それをひとつの変化する世界として記述する場合にのみ、今日の人間にも記述できる」（いずれの引用も、ブレヒト『今日の世界は演劇によって再現できるか』所収）。この考え方は我々の演出についても大いに応用され得る。我々は俳優を一つの意味に押し込めるのではなく、絶えず変化し続けるものとして捉えることを目指している（ニコラス・レイの『ラスティ・メン』を見よ）。

近年、僕は受講生たちを見ながら、彼らは現代の映画について指針となる理念を渴望しているのではないかと感じている。講師陣は、個々の作品の講評を通じて、実は表現を裏打ちする理念について語っているのだが、それはややもすると、ケースバイケースの技術論として受け止められ、消費されて、そこに通底する理念が見えにくくなっている。だが、その一方で、受講生たちは講師陣が語る言葉の根源にあるこの理念こそもっと知りたいのではないかと。

理念とは僕なりの言葉で言えば、「自分の脳みその外側に出て考える」ということなのである。すでにナチス時代において、ブレヒトは立ち向かうべき相手はゲシュタポやSS（親衛隊）ではなく個々人の内面の中にいると示唆していた。今日においては、それはより深く、意識にすら浮上しないレベルで脳内に食い込んでいる。人々は困難な現実と直面すると、たちまち脳内の回路を閉じて、既存の引き出し（脳内イメージ）だけで処理する道を選んでしまう。様々なことに疑いを抱くくせに、「閉じる」という選択肢だけは疑っていない。だが、今日必要なのは“深く抉る”ことなのだ。僕は高等科では、このような理念＝価値観を繰り返し言葉にして受講生に伝えたいと思う。従うべきイデオロギーとしてではなく、現代の映画を発見する契機となるために。

高橋洋

「初等科での映画作りをダイナミックに更新、進化させるために、いま考えるべきこと」

シナリオで描かれるもの、現場での演出によって描かれること、何を書き、何を演出するか……その考えや考え方自体はどこからどのように出てくるのか。つまり何事かを創作する上での枠組みとなる大前提をみなさんは考えたことはあるだろうか？……その前提となる考え方や創作に向かう態度といったものが、みなさんが作り出すものをすでに決定してしまっている、と感じたことはないだろうか？

あなたの物語は題材だけで決定されるのではなく、その語り方と同時に見いだされる。しかも、その語り方（形式）によって描ける内容は決まってしまう。形式によって考え方が規定されてしまうからだ。

大きい枠組みで言えば、例えばあなたがロマン主義的な視点をとるか、自然主義リアリズムの視点で描くのかによって描かれる内容ががらりと変わる。大雑把にまとめると、ロマン主義とは一つの理念（あるいはイメージ）によって作品世界を主観的にコントロールしようとする。自然主義リアリズムとは主観を排して客観的に世界を（題材を）捉え、そこから自然に生成されるものを現実的に描くこと。十分な知識も経験もないものがロマン主義的な態度だけで臨むとそれこそ「自分がやりたいことをやりたいようにやっただけ」の独りよがりな幼稚な印象の作品になりがちだ。一方、自然主義リアリズム的に言うなら、シナリオは「設計図」ではなく、一つの「仮説」と見るべきで、そこではイメージと現実の整合性が試され、うまく（というのは「創造的に」という意味でだが）折り合いがつかなければその仮説は取り下げられ、新しい仮説が立てられることになる。仮説は崩れて、さらに新しく強くするためにある。（演出もまたシナリオという仮説を検証するための実験である）。その土台があって初めてあなた独自のロマン主義が無理のないかたちで見出されることになるのだが、大事なのはあなたの主観（ロマン）からくる先入観をできるだけ取り除いて、題材をまずはフラットに描いてみることだ。そのベースの上には的確に抑揚を付け、メリハリを付けて行けばあなたの物語（ロマン）が生まれる。この考え方は演技リハーサルにおける「イタリア式本読み」の考え方と実は同じだ。そこには映画作りの基本原理に関わる何かがある。

高等科では、このように映画作りに対する考え方自体に意識的になって、それを更新するところから、あなた独自の映画と物語を模索してもらいたい。

西山洋市

フィクション・コース第29期高等科 カリキュラムの主な流れ

9月29日	開講ガイダンス／短編をつくる高等科1：要項提示・班分け発表
10月	短編をつくる高等科1：講評
11月	10分短編映画制作：シナリオ提示・班分け・ホン直し
12月	10分短編映画制作：撮影準備・リハーサル・模擬撮影
2027年1月	10分短編映画制作：撮影・ポストプロ
2月	10分短編映画制作：上映と講評 コラボレーション実習：企画提示 コラボレーション実習：スタッフ編成
3月	コラボレーション実習：企画開発・撮影準備 コラボレーション実習：各部講義（撮影・照明・録音・制作）
4月	コラボレーション実習：リハーサル・撮影準備
5月	コラボレーション実習：撮影・編集 コラボレーション実習：ポストプロダクション講義 短編をつくる高等科2：要項提示 修了制作：要項提示
6月	コラボレーション実習：整音、効果 コラボレーション実習：グレーディング 修了制作：企画提出、シナリオ開発開始
7月	コラボレーション実習：ファイナルダビングミックス コラボレーション実習：0号試写、初号試写 短編をつくる高等科2：講評
8月	修了制作：シナリオ開発
9月	修了制作：シナリオ提出・選考
	修了制作実習

短編1

10分短編制作

コラボレーション実習

短編2

修了制作

※ 修了制作のシナリオ開発等は、クラス制となります（開講後クラス分けします）。

【短編をつくる高等科1】

班分けをして、それぞれ一人1本ずつ10分程度の短編を作ります。まずは高等科での肩慣らしですが、初等科からの顔馴染みのメンバーも、各人が高等科に向けた目標や希望を持っています。仲間意識を更新しましょう。

【10分短編映画制作（脚本コースとのコラボレーション）】

脚本コース第15期高等科後期受講生が書いたシナリオをフィクション・コース第29期高等科受講生が制作する、脚本コースとのコラボレーション講義です。2班に分かれて、脚本コース、フィクション・コースの講師と受講生たちが参加する本直し、フィクション・コース講師の立ち会いで行う模擬撮影、受講生たちだけで行う撮影、ポストプロを経て作品を完成させます。

【コラボレーション実習】

講師とともに25分程度の短編映画のシナリオを開発し、撮影し、仕上げを行います。担当講師は西山洋市（映画監督）です。

コラボレーション実習の目標は大きく分けて2つです。

1. 講師（プロ）がどのようにシナリオを構想するのかを間近に見る

受講生は、コラボで制作する映画のシナリオを担当講師と共に企画、執筆します。通常の企画講評・シナリオ講評とは違い、講師も自分の作品としてシナリオ作りに参加していきます。受講生は、講師が何を考え、何を抛り所とし、何を狙っているのか、講師のシナリオ作りの現場を共作者として体験します。シナリオの開発期間は約2ヶ月です。

2. 講師（プロ）の演出技術・撮影録技術に間近に触れる

監督は講師と受講生（代表者）が務め、またプロである撮影照明講師、録音講師も参加して撮影・仕上げを行います。撮影前に、技術パートは実践的な技術講義を行います。プロと共に行う映画作りは、受講生仲間だけでの映画作りとはまったく別と断言しているほどの体験です。彼らの技術と同じスタッフ仲間として間近に触れることで、受講生の意識と技術は確実にレベルアップします。撮影期間は4日間、ポストプロ期間は2ヶ月程度です。

◇準備（2月～4月）

企画の立ち上げからシナリオづくり、撮影に向けた準備、ロケハン、キャスティング、など多岐にわたる課題・問題点を全員で共有し、各部ごとの準備を進めます。

◇各部講義・テスト撮影（4月）

撮影に向けて、撮影部・照明部・録音部・制作部はレクチャーを受け、撮影本番に向けてのテスト撮影を行います。

◇リハーサル（4月）

撮影稿をもとに、芝居を作り込んでいく過程を受講生全員で体験します。

◇撮影（5月）

講師陣とともに撮影現場を体験します。初等科で行ったミニコラボ実習とは比較にならない、経験したもの曰く「これを通るか通らないかでは全く違う」現場体験が待っています。

◇編集（5月）

完成までの作業を自分たちで行います。スタッフを再編成し、全員で編集から仕上げまで取り組みます。

◇デジタル・グレーディング（6月）

映像の色彩補正作業は、作品の最終的なルックを決める大事な作業です。

◇音仕上げ作業（5～7月）

編集同様、完成までの作業を録音講師の指導を受けて自分たちで行います。ポストプロダクション講義を経て、本格的な整音作業を体験します。「音で映画を豊かにする」ということはどういう事なのかを実際に機材を動かしながら体験して行きます。ファイナルダビングミックスには録音講師が立ち会います。

【短編をつくる高等科2】

「10分短編映画制作」「コラボレーション実習」で得た経験を生かして、各人が10分程度の短編を制作します。班分けはしませんが、新たな意識で繋がった仲間たちとぜひ協力し合ってください。

【修了制作】

受講生各人が、まずは修了制作作品となる24分から30分尺のシナリオの企画・開発を行います。その後、企画検討→シナリオ化→シナリオ検討→最終シナリオ（&シナリオ検討会）と続きます。これまでの高等科体験で得た経験を総動員して、最終シナリオを完成させます。最終シナリオと「短編をつくる2」での作品をもとに、2027年9月に修了制作を選考します（修了制作の本数は受講生の人数（つまり予算）によって変動します）。10月から制作を開始し、2028年10月ごろを完成の目処とします。完成尺は30分以内です。

映画美学校フィクション・コース第29期高等科 募集要項

■受講期間：2026年9月29日（火）から2027年9月末まで

※2027年9月から2028年10月までは修了制作の制作期間となります。

■受講資格：第29期までのフィクション・コース初等科修了生、フィクション・コース第24期前期・後期修了生、映画映像制作の基礎を修得した方

■講義日程：＜開講日＞2026年9月29日（火）19時から。※詳しくはカリキュラム日程表をご覧ください。

■定員：26名（最低開講人数19名）

■受講料：409,000円＋保険料9,000円＝418,000円（税込）

※映画美学校をはじめて受講される方は、上記の受講料以外に入学登録料（10,000円）が必要になります。実習費等の別途徴収はありません。

※受講料のお支払いは一括支払いか分割支払いをお選びください（映画美学校通年講座を初めて受講される方は全額分割はご利用いただけません）。

※受講証の有効期限は2027年9月までとなります。

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして

総額418,000円（受講料409,000円 保険料9,000円）＋分割手数料1,500円

210,500円を前払い（映画美学校通年コースを初めて受講される方は220,500円） 残額209,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	418,000	209,000	209,000	8,780	217,780	43,556
10	7.00%	418,000	209,000	209,000	14,630	223,630	22,363

全額418,000円＋分割手数料が分割払いになります。（映画美学校通年コースを初めての方は選択出来ません）

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割手数料	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	418,000	0	418,000	17,560	1,500	437,060	87,412
10	7.00%	418,000	0	418,000	29,260	1,500	448,760	44,876
20	10.50%	418,000	0	418,000	43,900	1,500	463,400	23,170

（単位：円／税込）

■申込方法：オンラインによる申込

第29期初等科生を先行受付（先着順）とし、第29期初等科生で定員に達しなかった場合のみ一般からも受け付けます。

■一般申込受付期間：2026年9月1日（火）15：00～9月18日（金）20：00まで

（ただし、定員に達し次第申し込みを締め切ります。）

＜一般受付＞



■受講手続：合格通知に記載されている受講手続に従い、受講料をお振込ください。入金が確認された時点で申込み受付完了となります。

※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

映画美学校約款

■受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

■受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

■受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

■安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たちが安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

■著作権について

- ◎講義内で行われる個人課題やドキュメンタリー・ワークショップの編集講評の対象となった作品を除き、本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■ お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

